

新入学生の皆様、本日のご入学、誠におめでとうございます。

拓殖大学後援会会長として一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

本日入学された皆さま方は、それぞれ自分の夢と希望をもっておられるものと思います。

大学は、自ら学び、そして心身を鍛え、将来に向かって大きく成長していく場です。

拓殖大学を舞台に色々な人と出会い、互いに啓発し合いながら、大いに羽ばたいていってもらいたいと思います。

今、世界は大きな転換期を迎えております。ウクライナ戦争や中東情勢の混乱度も増し、『分断と対立』が続いております。こうした現実を直視しながら、何とか問題解決の道筋を見出していきたいものです。

拓殖大学は1900年、明治33年に設立された歴史と伝統のある大学です。開学以来、文字通り、開拓者魂と積極進取の気概を持ち、新しい時代を切り開くグローバル人材、つまり、拓殖人材を生み出してきました。

いつの時代も課題は山積します。その課題解決に向けて人類社会は今、真価が問われております。20世紀は戦争の時代と言われ、国と国の対立や紛争が激しくなりました。そういった時にも共存、共栄に向けて解決策を見出そうとするリーダーや人物がいました。

拓殖大学、第2代学監・新渡戸稲造博士は第一次世界大戦終了後に発足した国際連盟事務次長として北欧の紛争解決に奔走しました。

クリスチャンでもあった新渡戸博士は日本の精神的基軸は何かと問われ、それは武士道ですと答え、それを著作にしました。この『武士道』という本は、当時の米国大統領をはじめ、各国のリーダーや人々に大きな影響を与えました。

拓殖大学の設立者の桂太郎公は明治維新以来、西洋列強の圧力を受ける中、近代国家への道筋をつけるために奔走し、グローバルに活躍する人材を育成しようと本学を設立したという歴史的経緯があります。また、第3代学長の後藤新平伯も本学で人材育成に尽力した人物です。大正の関東大震災の後の東京復興で社会インフラの整備に努め、首都の復興に努めたリーダーでもあります。

このように本学は設立以来、人材の育成を図り、それが今日まで脈々と続いております。

拓殖大学後援会は本学の教育理念に賛同し、学術面や体育振興の支援を行っております。

新入生の皆さんもこうした歴史を踏まえ、混沌とする内外の状況下をしっかりと生き抜き、心身を鍛えていってもらいたいです。

国と国の繋がり、人と人の繋がりを大事にする本学で大いに学び、学友との繋がりを一層深めていただければと思います。今後一層の努力、奮闘を心よりお祈り申し上げます。

新入生の皆様、本日のご入学、誠におめでとうございます。

令和8年4月3日

拓殖大学後援会

会長 村田博文